

『楕円形の精神』～『バランスよく生きる』～

この度、雑誌の特集で 筆者の文章【人生後半戦を豊かにする『終活』：『クオリティ・オブ・デス』から人生を考える ～『がん哲学外来』で私が目指してきたこと ～】が掲載されるようである。

筆者は、何時も小学生の『がん教育』の授業で『先生の夢は何ですか？』と質問される。『私の夢は、天国でカフェを開くことである』と答える。生徒 1～2 人から『私を お茶係に採用してください』と反応される。【『冗談を本気で語ると 悩める人は 問題は解決されなくても 解消される』が『がん教育』の原点】でもある。

筆者は、『クオリティ・オブ・デス（死の質）』として【死んだら 勝海舟(1823-1899)・新島襄(1843-1890)・内村鑑三(1861-1930)・新渡戸稲造（1862-1933）・南原繁(1889-1974)・矢内原忠雄（1893-1961）・吉田富三（1903-1973）・菅野晴夫(1925-2016)・Alfred Knudson(1922-2016)】と、『天国でカフェを開く』のが夢である（画像）。

『人には 最後に死ぬという 大事な仕事が残っている』。哲学者イマヌエル・カント(Immanuel Kant: 1724 -1804)の臨終の言葉『これでよい』。 勝海舟は『これでおしまい』。 内村鑑三の難病で亡くなった娘は『もう行きます』。 人間、最期はこの 3 つのどれか準備しておいた方がよいであろう。 これが『クオリティ・オブ・デス（死の質）』である！

筆者は、【『アダムは 930 年生きた』（創世記 5 章 5 節）、『ノアの一生は 950 年であった』（創世記 9 章 29 節）、『アブラハムの一生の年で、175 年であった』（創世記 25 章 7 節）、『モーゼが死んだときは 120 であったが、彼の目はかすまず、気力も衰えていなかった。』（申命記 34 章 7 節）と紹介し、『それで人の年齢は、120 歳にしよう』（創世記 6 章 3 節）』を語る。『不思議な人類の歴史の流れ』である。

人間の体の中には 相対するものが共存している。『がん遺伝子 & がん抑制遺伝子』、『交感神経 & 副交感神経』など。 その姿は『同心円』ではなく、二つの中心を持つ『楕円形』である。 内村鑑三と新渡戸稲造の『楕円形の精神』がここにある！ 『良いことも悪いことも 包み込んで バランスよく生きる』のが、まさに、『人生の目的は 品性の完成』であろう！

《樋野先生の夢》

7人の侍：「勝海舟・新島襄・内村鑑三・新渡戸稲造・南原繁・矢内原忠雄・吉田富三」と先生の恩師：「菅野晴夫先生（癌研時代）、Alfred George Knudson 博士（アメリカ時代）」と樋野興夫先生とで天国でメディカル・カフェを開催すること。希望者はお茶係に採用してくださるはずです。

